

# 日本気象学会2014年度春季大会 出展・協賛・後援 企業・団体等一覧

今大会の開催に当り、以下の企業・団体からご出展・ご協賛・ご後援を頂きました（2014年4月25日現在；50音順）。厚く御礼申し上げます。（\*はポスター会場内に併設されるブースにて展示を行う予定の企業・団体です。）

## < 出展・協賛 >

[英弘精機株式会社\\*](#)  
[HPCシステムズ株式会社\\*](#)  
[キーコム株式会社\\*](#)  
[株式会社キバンインターナショナル\\*](#)  
[クリマテック株式会社\\*](#)  
[Cambridge University Press\\*](#)  
[サイバネットシステム株式会社\\*](#)  
[三興通商株式会社\\*](#)  
[三報社印刷株式会社](#)  
[JFEアドバンテック株式会社\\*](#)  
[全日本空輸株式会社](#)  
[DKSHジャパン株式会社\\*](#)  
[トーテックス株式会社](#)  
[日本SGI株式会社](#)  
[株式会社日本エレクトリック・インスルメント\\*](#)  
[一般財団法人日本気象協会\\*](#)  
[日本無線株式会社\\*](#)  
[株式会社ニューテック\\*](#)  
[株式会社ハイドロシステム開発\\*](#)  
[ビジュアルテクノロジー株式会社\\*](#)  
[株式会社日立ソリューションズ東日本\\*](#)  
[株式会社プリード\\*](#)  
[古野電気株式会社](#)  
[三菱電機特機システム株式会社\\*](#)

## < 出展 >

[独立行政法人宇宙航空研究開発機構\\*](#)  
[独立行政法人海洋研究開発機構\\*](#)

## < 後援 >

[横浜市](#)



# 大会行事予定

A会場 : 開港記念会館 講堂 (1F・2F)  
 B会場 : 横浜情報文化センター 情文ホール (6F)  
 C会場 : 開港記念会館 1号室 (1F)  
 D会場 : 開港記念会館 6号室 (2F)  
 ポスター会場・企業展示会場・リクルートブース :  
 横浜情報文化センター 6F・7F

総会・記念講演・シンポジウム :  
 開港記念会館 講堂(1F・2F)  
 受付 : 開港記念会館 3・4・5号室 (1F)  
 大会事務局 : 開港記念会館 7号室 (2F)  
 懇親会 : ローズホテル横浜  
 (横浜市中区山下町77, 会場より徒歩8分)

		A会場	B会場	C会場	D会場
5月 21日 (水)	10:00～ 11:30	降水システムI ( 6, A101～A106)	気候システム I ( 6, B101～B106)	中層大気 ( 5, C101～C105)	環境気象 ( 5, D101～D105)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (43, P101～P143)			
	13:30～ 17:00	専門分科会 (18, A151～A168) 「モンスーン・熱帯気象 研究の新たなブレイク スルーを目指して ―村上多喜雄先生追悼 特別セッション―」	専門分科会 (14, B151～B164) 「都市における極端気 象」	中高緯度大気・相互作 用 I ( 9, C151～C159)	気候システム II (13, D151～D163)
5月 22日 (木)	09:30～ 11:30	気候システム III ( 9, A201～A209)	観測手法 ( 9, B201～B209)	中高緯度大気・相互作 用 II ( 6, C201～C206)	放射 ( 6, D201～D206)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (44, P201～P244)			
	13:30～ 15:10	総会			
	15:20～ 17:30	学会賞・藤原賞・岸保賞受賞記念講演			
	18:15～ 20:15	懇親会			
5月 23日 (金)	09:30～ 11:30	台風 I ( 9, A301～A309)	物質循環 ( 9, B301～B309)	雲物理 ( 8, C301～C308)	気象教育 ( 6, D301～D306)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (46, P301～P346)			
	13:30～ 17:00	公開シンポジウム「気象学における科学コミュニケーションの在り方」			
5月 24日 (土)	09:30～ 11:30	台風 II・熱帯大気 ( 9, A401～A409)	気象予報・データ同化 ( 8, B401～B408)	降水システム II ( 8, C401～C408)	大気境界層 ( 8, D401～D408)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (46, P401～P446)			
	13:30～ 17:00	公開気象講演会 「局地風の世界」	竜巻 (14, B451～B464)	専門分科会 (11, C451～C461) 「都市における気候変 動適応研究の最先端」	大気力学 ( 9, D451～D459)

発表件数 : 384件 (専門分科会43, 口頭発表162, ポスター179)

当大会予稿集に掲載された研究発表の文章・図表を複製あるいは翻訳して利用する場合には、日本気象学会の文書による利用許諾を得た上で出所明示して利用しなければなりません。ただし著作者自身による利用の場合は、利用許諾の申請は不要です。

本プログラムの記載内容に関する問い合わせは、〒305-0052 茨城県つくば市長峰1-1気象研究所予報研究部内 講演企画委員会  
 (e-mail: kouenkikaku2014s@mri-jma.go.jp) まで。

# 講演の方法

## 一般口頭発表・専門分科会

- ・ 一般口頭発表の講演1件あたりの持ち時間は13分（講演10分・質疑3分）です。
- ・ 専門分科会の発表時間についてはコンビーナーからの指示に従ってください。
- ・ 講演にはPCプロジェクターを使用できます。
- ・ 講演にあたり、予め以下の点をご了承ください。
  - ✓ パソコンは各自で準備して下さい。会場にはプロジェクターおよび接続ケーブルのみを準備します。
  - ✓ セッション開始前の休憩時間などを利用して、必ず接続の確認を行っておいて下さい。また接続が不安な場合は、セッション開始前に会場係に申し出て下さい。
  - ✓ 突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場合、座長の判断で発表順の繰り下げなどの対応することがあります。携帯用メディアによるバックアップファイルの準備など、トラブルへの備えは講演者自身で行って頂くようにお願いします。

## ポスター発表

- ・ 講演者はポスターに表題と著者名を明記して下さい。
- ・ ポスター発表の一人当たり使用可能面積は、縦160cm×横90cm（A0相当）となっています。
- ・ ポスターを掲示する際には画鋏をお使い下さい。必要な画鋏は講演者自身でご用意ください。なお、テープは使用することができません。
- ・ ポスターの掲示可能時間は、大会第1～3日目は09:00～17:30、大会第4日目は09:00～14:00です。会場の都合上、特に撤収は毎日時間厳守でお願いします。
- ・ ポスター会場での機器の使用は、講演申し込み時に予め申し出ていたもの以外は原則として認められません。
- ・ ポスター会場では電源は使用できません。

---

## 公開シンポジウム「気象学における科学コミュニケーションの在り方」

日時：大会第3日（5月23日）13:30～17:00（開場: 13:00）

会場：横浜市開港記念会館 講堂

ファシリテーター：小玉知央・茂木耕作（海洋研究開発機構）川瀬宏明（気象研究所）

### 趣旨：

気象学は、天気予報・防災・環境問題を扱い、一般市民の社会生活、経済活動、政策決定に至るまで、情報伝達の重要性が極めて高い学問分野です。近年、気象学の発展に伴う情報の質だけではなく、社会基盤の側で求める情報の在り方や取得の仕方も大きく変わり、改めて、科学コミュニケーションの重要性が問い直されています。

気象教育、情報普及の在り方も含めて、気象学を必要とする人々との対話から、お互いに求める情報伝達の在り方と研究発展へのフィードバックについて、多面的に議論する場としてこのシンポジウムを企画しました。

シンポジウムの中で参加者のみなさま自身によるコミュニケーションの実践も含めて、具体的な行動や取り組みの変化につながることを生み出して頂けたら幸いです。

### 討論テーマ：

- 1) 「Dr. ナダレンジャーの自然災害科学実験教室」  
Dr. ナダレンジャー（防災科学技術研究所）
- 2) 「マスメディアと研究者は理解し合えるのか？」  
岩谷忠幸（気象キャスターネットワーク）
- 3) 「研究者の科学的発信に客観中立はあるのか？」  
江守正多（国立環境研究所）
- 4) 「Dr. ナダレンジャーの自然災害科学実験教室の展望と課題」  
納口恭明（防災科学技術研究所）

※各テーマにつき、講演者の話題提供と参加者による討論の時間を30～60分ずつを目処に進行します。

※本シンポジウムは公開です。学会員以外の方のご参加も歓迎します。

# 総 会

日時：大会第2日（5月22日）13:30～15:10

会場：横浜市開港記念会館 講堂

## 議事次第

1. 開会
2. 議長選出
3. 理事長挨拶
4. 2014年度日本気象学会賞授与
5. 2014年度藤原賞授与
6. 2014年度岸保賞授与
7. 2013年気象集誌論文賞及びSOLA論文賞授与報告
8. 議事
  - (1) 2013年度事業報告
  - (2) 2013年度収支決算報告
  - (3) 2013年度監査報告
  - (4) 第38期理事の選任について
  - (5) 名誉会員の推薦について
9. 報告
  - (1) 2014年度事業計画
  - (2) 2014年度収支予算
  - (3) その他
10. 議長解任
11. 閉会

---

## 専門分科会の概要紹介

2014年度春季大会では下記の通り、3件の専門分科会が開かれます。

### モンスーン・熱帯気象研究の新たなブレイクスルーを目指して —村上多喜雄先生追悼特別セッション—

日時：大会第1日（5月21日）13:30～17:00

場所：A会場

趣旨：ハワイ大学名誉教授の村上多喜雄先生が2013年7月16日に急逝されました。村上先生は世界的に著名なモンスーン・熱帯気象研究者で、数多くの論文や著作を通じてモンスーン・熱帯気象学の発展へ多大な貢献をされたと同時に、日本の熱帯気象学の国際的地位の向上にも尽力されました。また、多くの日本の若手研究者をハワイ大学に積極的に受け入れ、共同研究を通してその育成にも尽力されました。本分科会では、観測研究から、データ解析、数値シミュレーションに至る様々な手法に基づいた、モンスーンや熱帯気象関連研究を話題提供して頂くことで、先生が関わられた分野の新たな研究のパラダイムの構築の一助にしたいと考えております。

コンピーナー：川村隆一（九州大学）、松本 淳（首都大学東京）、中澤哲夫（世界気象機関）、住 明正（国立環境研究所）

### 都市における極端気象

日時：大会第1日（5月21日）13:30～17:00

場所：B会場

趣旨：高度に発達した交通網や通信網を有し、数百万以上の人々が生活する大都市には、台風、集中豪雨、落雷、突風などの激しい気象擾乱に対する脆弱性が内在しています。今後の気候変動に伴って懸念される局地的な豪雨の多発化や巨大台風の発生は都市型災害の被害を甚大化する可能性が高く、局地的大雨・強風などの極端気象の監視・予測技術の確立は急務です。当専門分科会では都市における極端気象に関し、以下の3つの主題につ

いて議論を行います：

1. 極端気象のメカニズム解明,
  - a. 新たな観測技術の開発
  - b. メカニズム解明
  - c. 統計解析
2. 極端気象の監視・予測システムの開発,
  - a. 発生予測手法の開発
  - b. 監視・予測システムの開発と運用
  - c. データベース構築
3. 極端気象に強い都市創り社会実験
  - a. 救助活動
  - b. 危機管理
  - c. 社会基盤
  - d. 生活・教育

コンピーナー：小司禎教（気象研究所）、三隅良平（防災科学技術研究所）

### 都市における気候変動適応研究の最先端

日時：大会第4日（5月24日）13:30～17:00

場所：C会場

趣旨：文部科学省・気候変動適応研究推進プログラム（通称 RECCA）の都市研究領域では現在、集中豪雨、異常高温、ヒートアイランド等、気候変動による都市圏への影響およびその適応策や、低炭素社会の実現に向けた研究を実施している。本専門分科会では、RECCA における成果を中心に、都市圏の気候変動適応策策定に資する高解像度気象・気候モデルに関連した気象・気候学的課題の集中的な議論を行い、この課題に関する理解を深めたい。特に、1) 都市圏を対象にした気象・気候モデルの高度化、2) ビルスケールモデルへのダウンスケーリングやパラメタリゼーション、3) 都市圏の土地被覆・土地利用変化、4) いろいろな構造物・街路樹を含む適応策評価等のモデル化、5) これらのモデル化に必要な

情報に関するデータベースの整備、6) 都市域におけるデータ同化とそれに使用する観測データ等に対する新しい考え方とその評価手法等について、RECCA 課題における研究成果を紹介する。

コンビナー：大楽浩司（防災科学技術研究所）、高橋桂子（海洋研究開発機構）、飯塚 悟（名古屋大学）、中島映至（東京大学）、近藤裕昭（産業技術総合研究所）

---

## 公開気象講演会のお知らせ

参加は無料です。

日時：2014年5月24日（土）（大会第4日）13:30～17:00

場所：横浜市開港記念会館 講堂（大会A会場）

テーマ：「局地風の世界」

主催：公益社団法人 日本気象学会教育と普及委員会

趣旨：日本気象学会2014年度春季大会の開催に合わせて、一般市民の方々に気象に関する最近の研究成果や関心の深い事柄について、わかりやすく解説することを目的とした公開気象講演会を開催します。今回は「局地風」をテーマに取り上げます。

局地風とは、地形などの影響により特定の地域に吹く風のことです。農業や漁業など、生活と密着するため、その地域特有の名前で呼ばれる風が日本各地に存在します。なかでも、清川だし（山形県）、広戸風（岡山県）、やまじ風（愛媛県）は、日本の三大悪風と呼ばれています。発生や強風のメカニズムは、古くからよく調べられていますが、まだまだ多くの謎が残っております。今回の講演会では、三大悪風や局地風の謎に迫る研究者に、これまでの研究成果や現在の取り組みについてご紹介して頂くことにしました。ふるってご参加下さるようお願い

いたします。

テーマおよび講演者：

1. 「局地風の世界」  
木村富士男（海洋研究開発機構）
2. 「”広戸風”の正体」  
筆保弘徳（横浜国立大学）
3. 「”やまじ風”の正体」  
斉藤和雄（気象研究所）
4. 「”清川だし”の正体」  
佐々木華織（農業・食品産業技術総合研究機構）
5. 「新局地風発見”北岩手波状雲”と”肱川あらし”」  
名越利幸（岩手大学）
6. 「局地風研究の最前線”比良下ろし”」  
東邦昭（京都大学）

問い合わせ先：：筆保弘徳（横浜国立大学）

TEL: 045-339-3346

E-mail: fude@ynu.ac.jp

---

## 研究会のお知らせ

何れも参加は無料・事前の申込も不要ですので、興味のある方はご自由にご参加下さい。

### 第41回メソ気象研究会

日時：2014年5月20日（火）（大会前日）13:30～17:00

場所：気象庁講堂（東京都千代田区大手町1-3-4）

テーマ：「台風 ～発生・発達と日本への影響～」

コンビナー：北島尚子（気象研究所）

内容：台風は過去には日本において最も大きな気象災害を引き起こす原因の1つでした。近年、進路予報が改善されることにより、防災対策が事前に可能となる事例も多くなりましたが、台風に伴う暴風や大雨は依然として大きな災害の原因となっています。2013年台風第18号に関連した近畿地方等の大雨による広域にわたる水害や、台風第26号に関連した伊豆大島の豪雨による大規模土砂災害は、日本の台風災害として記憶に新しいところです。またフィリピンに襲った台風第30号による災害は、様々な形で日本社会に影響を与えています。今回、2013年の台風活動及び自然災害の実態を理解する上で、熱帯海域における台風発生環境の特徴から、発達メカニズム、中緯度での構造変化とそれに関連して日本付近で発現するメソ気象現象について話題

提供していただきます。多くの方々のご参加と活発な議論をお願いいたします。

プログラム：

- 13:30-13:35 趣旨説明
- 13:35-14:05 台風発生・発達に関わる環境場の観測  
城岡竜一（海洋研究開発機構）
- 14:05-14:35 数値シミュレーションによる台風発達の研究  
和田章義（気象研究所）
- 14:35-15:05 日本付近の台風の構造変化  
北島尚子（気象研究所）

休憩

15:20-15:40 日本付近の台風に伴うメソ気象現象

- (1) 台風に伴う竜巻  
末木健太（東京大学大気海洋研究所）

15:40-16:10 日本付近の台風に伴うメソ気象現象

- (2) 台風に伴う豪雨 —2013年台風第26号に伴う伊豆大島の大雨—  
津口裕茂（気象研究所）

16:10-16:30 日本付近の台風に伴うメソ気象現象

(3) 台風に伴うpressure dip  
筆保弘徳 (横浜国立大学)

16:30-17:00 総合討論

世話人：坪木和久 (名大地球水循環), 加藤輝之 (気象研究所), 小倉義光 (東大気海海洋研)

連絡先：北島尚子 (気象研究所)

E-mail : nkitab@at@mri-jma.go.jp

注意事項：自家用車での来庁はご遠慮下さい。正面玄関 (KKR東京側) をご利用ください。研究会の受付で入庁許可書を受け取り、着用して下さい。

## 極域・寒冷域研究連絡会

日時：2014年5月21日 (水) (大会第1日)

セッション終了後～2時間程度

場所：開港記念会館 1号室 (大会C会場)

テーマ：降雪量の真値とは？

趣旨：気象の基本要素のうち気温、気圧、風は気象の記述や天気予報にとっても十分な精度で観測できるようになりましたが、降雪量の観測は依然として困難です。たとえば筒型のRaingauge方式の測器では風による降雪粒子捕捉率の低下や蒸発ロスから逃れることができません。風速が5m/sを超えただけで真値の50%程度までしか捉えられません。身近な現象である降雪の観測がこれほどまでに難しいことは一般にだけでなく気象に携わる人々の間でもよく知られているとは言えません。私たちの持っている、そしてこれからアーカイブしていこうとする降雪量データはどのような精度なのでしょう。今ある気候値をどの程度修正する必要があるのでしょうか。極域をはじめとした、より寒冷な地域では、降雪強度が弱く、イベント全体の降雪量も少ない傾向にあるため、これらの問題はより深刻に影響すると考えられます。

WMOは約20年ぶりに第2回目の固体降水比較観測計画 (SPICE : Solid Precipitation Intercomparison Experiment) をアレンジしました。日本では気象庁、防災科学技術研究所、国立極地研究所が2つの観測サイトを運用し参加しています。今回はSPICEサイトで観測している2名の方に、降雪量の観測の問題点とそれを改善するためにどのようなアイデアがあるのかについて語っていただきます。また、普段の研究においても降雪量や降雪粒子を扱っている方々からの当日の話題提供もいただきたいと考えています。どうぞ奮ってご参加ください。

- 1 「新潟県長岡市と北海道陸別町における降雪量の測器間比較」  
平沢尚彦 (極地研究所)
- 2 「降雪粒子特性を考慮した降雪計測」  
中井専人 (防災科学技術研究所)

※当日の話題提供を追加

問い合わせ先：平沢尚彦 (国立極地研究所)

TEL: 042-512-0685

E-mail: hira.n@nipr.ac.jp

## オゾン研究連絡会

日時：2014年5月23日 (金) (大会第3日)

セッション終了後～2時間程度

場所：開港記念会館 1号室 (大会C会場)

テーマ：

- 1) 「北半球各地観測されたHClの再増加」  
村田 功 (東北大院環境科学)
- 2) 「今後の研究会のあり方について」

内容：今回はまず最近地上観測や衛星観測で見られている成層圏 HCl の再増加についての話題提供です。フロン規制に伴い、2000年代に入って HCl は減少し始めていましたが、北半球では 2007 年頃から再び増加しているという観測結果が出てきています。この原因として、どうやら循環の変化が影響しているらしいということは分かってきたのですが、あまり詳しいことはまだ分かっていません。現在までに分かった情報を提供し、議論したいと思います。また、現幹事の体制となつてからずいぶん時間が経ちました。今後この研究会をどうするのが良いかについてみなさんのご意見を聞き、議論したいと思います。

世話人：笠井康子 (NICT), 川上修司 (JAXA), 河本 望 (RESTEC), 永島達也 (環境研), 高島久洋 (福岡大学/JAMSTEC), 村田 功 (東北大院環境科学)

連絡先：村田 功 (東北大院環境科学)

E-mail : murata@pat.pat.tohoku.ac.jp

## 気象教育懇談会

日時：2014年5月23日 (金) (大会第3日)

セッション終了後～2時間程度

場所：開港記念会館 6号室 (大会D会場)

テーマ：「日本気象学会ジュニアセッション開設と学校教育」  
趣旨：日本気象学会大会時に通常のポスターセッションではなく、中・高校生を主体としたポスターセッションの開催を検討しております。このようなセッションを通じて気象分野に関心を持つ若い層の拡大とレベルアップを意図しています。学校教育における気象分野の検討をもとにジュニアセッションの方向性を探っていきたいと考えています。詳細は「教育と普及委員会」のホームページ (<http://www.metsoc.or.jp/kyoikuhukyu/index.html>) でお知らせします。

代表者：「教育と普及委員会」 畠山正恒

E-mail : hatakeya@hotmail.com

## 大会期間中の保育支援について

大会実行委員会では、保育施設の斡旋ならびに施設利用料の一部補助を行います。保育施設としては、次の横浜市

認可保育所を紹介予定です。

「ラフ・クルー元町保育園」

<http://www.laugh-crew.net/nursery/motomachi/outline.html>

横浜市中区石川町 2-64 プラザセレス石川 2F

利用料金 (8:00-19:00) : 3 歳児未満 2,400 円/日, 3 歳児以上 1,300 円/日, 給食 (離乳食含) 350 円/回, おやつ (離乳食含) 150 円/回, 補食 150 円/回

利用を希望される方は, 4 月 17 日 (木) までに下記担当までご連絡下さい.

期日を過ぎた場合や, 人数の都合によっては他の保育施設をご紹介させて頂く場合もございます. なお, 利用料の一部補助につきましては, 上記以外の保育施設を利用される方も, この対象になります. 希望される方は下記担当までご連絡ください.

連絡先: 服部 美紀 (海洋研究開発機構)

E-mail: [msj2014req@jamstec.go.jp](mailto:msj2014req@jamstec.go.jp)

TEL: 046-867-9254

---

## リクルートブースの設置について

日本気象学会は, 若手・任期付研究者のキャリア形成をサポートするために, 大会会場にてリクルートブースを設置します. これは, 気象学会に所属する大学院生や有期雇用の若手研究者が, 広く民間企業にて適職に出会うのをサポートするために, 申し出のあった企業の就職担当者に会場に来て頂き, 就職を希望する参加者と直接情報交換する場を提供する取り組みです. ブース訪問希望者の参加予約等の手続は不要です.

ブースはポスター会場に併設する予定で, 原則として毎日コアタイム (ポスター発表時間・昼休み) にのみ, 企業側担当者が対応します. また, 展示を行なう企業のうち予め届出のあった企業についても, 展示ブース (ポスター会場に併設) にリクルートブースが併設されます. この場合, コアタイム以外の対応も可能です.

リクルートブースに出展予定の企業は以下の通りです

(2014 年 4 月 25 日現在).

<大会 1~4 日目>

[株式会社日本エレクトリック・インスルメント](#)

<大会 1 日目・2 日目>

[英弘精機株式会社](#)

[日本エヌ・ユー・エス株式会社](#)

[株式会社キバンインターナショナル](#)

[JFEアドバンテック株式会社](#)

[株式会社ソニック](#)

[一般財団法人日本気象協会](#)

<大会 3 日目・4 日目>

[株式会社日立ソリューションズ東日本](#)

---

## 秋季大会の予告

2014年度秋季大会は, 2014年10月21日 (火) ~23日 (木) に福岡国際会議場で開催される予定です.